

たかった。結果的にみると、新人大会は一  
点差で二位、府民体育祭三位で近畿大会に  
出場した程度に止まった。決して満足のゆ  
く成績ではなかつたが一生懸命たつたこと  
は確かである。今でもハンドボールを続  
けておられることは、高校時代での苦しかつ  
た練習のおかげであり、今から考えると先  
輩のシツタゲキレイと共にありがたいこと  
である。

## 全日本室内大会を見て

上田孝

今、テレビで全日本室内ハンドボールを  
見てきた。テレビに写つた最初は愛知紡績  
対日本体育大学の試合、9対6 愛知紡績が  
勝つ。おめでたい。何故かというは大学の現  
役より実業団が勝つたから。これは女子の  
部の優勝戦であつた。次の男子の決勝は、  
大崎電機工業対東京芝浦工大、テレビで見  
たのは12対10で大崎がリード、後残り時間  
三分でテレビ中継は終わったが恐らく大崎の  
勝だらう。これは有難い。我高津クラブは  
芝浦大と数年前に試合をして36対0で敗れ  
たのを憶えている。それ以来私は芝浦大を  
憎い奴と思つてきた。でも今日の試合を見  
ているととてもフェアで紳士的である。で

も、私は実業団の大崎電機を応援した。自  
分自身に つながらるからである。芝浦大が敗  
れたのはハンドボールを普及させるための  
手段であるかもしれぬ。でもスポーツに  
関する限り、私としてはその様なことを考  
えたくない。大崎電機工業は実力で優勝し  
たのである。実に立派である。私自身事業  
に成功してこの様な優秀な地位を持ちたい  
と常々思つてゐる。我々高津クラブがかつ  
て足許にも及ばなかつた芝浦が実業団に敗  
れたのだ。私も必ず成功して優秀なチーム  
を養へる様に奉仕する。諸君に頼む。実績  
において援助の面に於て応援してくれる様  
に。必ず、ハンドボール界において一派を  
なせとげてみることを約束する。今年の室  
内ハンドボール大会で、愛知紡績と大崎電  
機に優勝の栄冠が上つた様に私の事業にも  
スポーツ面で大きな誇りを持ちたい。  
ケチな根性じゃなく堂々とやつてもらい  
たい。私が必ず後押しする。  
現実には念社には、入つて働いてゐる人が  
親のスネかじりの大学生に勝つたというこ  
とこそ大いに意義がある。

(1961.10.25)

終